

家庭でできる!!

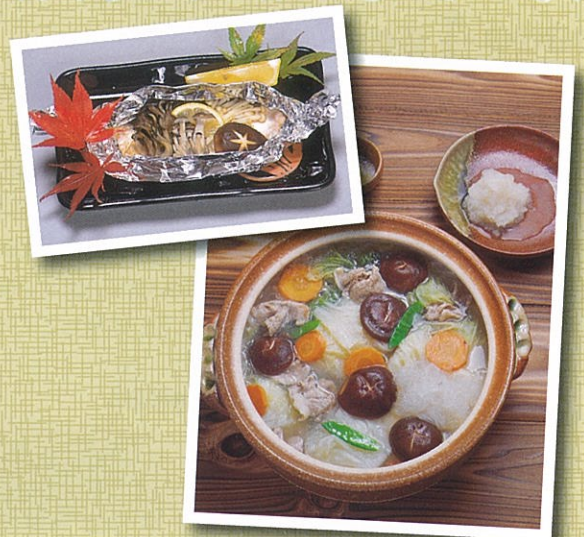
原木シイタケの栽培



シイタケはわが国で最も多く栽培されている食用キノコで、家庭でも簡単に栽培することができます。秋と春に自然発生するキノコは、大形で肉質が充実しており、生用としてばかりでなく、乾燥保存して各種料理に使用することができます。

お料理

自然発生した生キノコは、大形で肉が厚く、新鮮な食材として幅広い料理に使用することができます。また、乾燥品は各種料理に用いるほか、長期保存が可能なので、贈答用としても大変喜ばれます。シイタケには特有なうま味成分や香り成分のほか、ビタミンB群やD2、コレステロールや血圧を低下させるエリタデニン、その他多くの機能性成分が含まれています。



シイタケの原木栽培方法

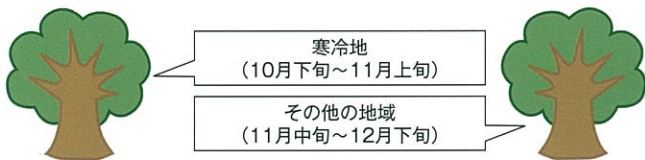
STEP 1 原木

最適な樹種はクヌギ、コナラ、ミズナラですが、シイ、カシ、クリなども使用できます。原木の直径は5~20cm位までのものが使えますが、10cm前後が扱いやすいでしょう。

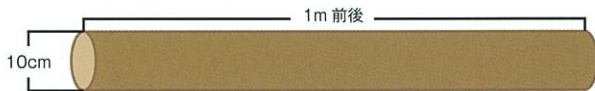
STEP 2 伐採、玉切り

クヌギ、ナラ類の伐採適期は、秋の5~8分紅葉の頃です。その他は、1~2月の寒い時期の伐採が良いでしょう。玉切りは、クヌギ、ナラ類は伐採後40~60日目で、木口に小ひびが入る頃、その他の樹種は伐採後10~30日経過した頃が適期です。しかし、秋の紅葉~春の新芽の頃であれば、伐採時期にあまりこだわる必要はありません。玉切りの長さは1m前後が一般的です。なお、寒冷地では原木を凍結させないように注意してください。

●伐期(紅葉5~8分程度から)



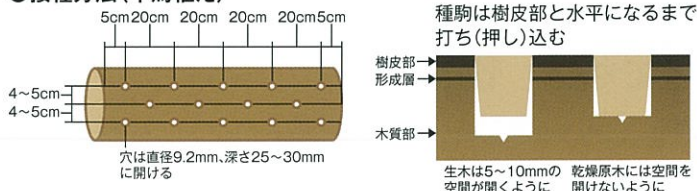
●原木の大きさ(玉切った場合)



STEP 3 接種

接種は、11月頃から5月上旬までの間に行います。接種の間隔は、縦方向約20cm、横方向約4cmの千鳥植え(下図)とします。接種数は、長さ1mの原木の場合は直径の約3倍(直径10cmの場合は32個)になります。種駒は9.2mmのキリを使用し、穴は25~30mmの深さに開けます。なお、玉切り後はできるだけ早く接種してください。

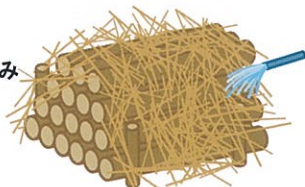
●接種方法(千鳥植え)



STEP 4 仮伏せ

接種後は、種駒からの発菌と初期まん延を促すために仮伏せを行います。高さ30~40cmの横積み、または数10本をまとめた縦積みとし、周囲をワラ、ムシロ、シェード等で覆います。この際、ホダ木(キノコ菌を接種した原木)が直接地面に着かないよう枕木やシートを敷いてください。接種後は必ず散水し、その後5~6日おきに数回ホダ木表面が濡れる程度の散水を行います。なお、仮伏せ中は内部の温度が25℃を超えないように注意してください。

●横積み



やや水分の多い原木に適する

●縦積み



やや乾いた原木に適する

STEP 5 本伏せ

4~5月になったら、ホダ木を林内や簡易ホダ場に移動します。密植林の場合は、間伐や枝打ちを行って通風を図り、光がチラチラ差し込むように改善します。乾燥する場所では低いよりの伏せ、大径木や湿度の高い場所では井桁積みが適しています。少量の場合は、合掌伏せがよいでしょう。秋までに2回ほど天地返し(ホダ木の上下・表裏を入れ替える作業)を行い、菌糸のまん延の均一化を図ります。なお、いずれも雨は十分当たるようにしてください。

●伏せ込み方法

よりの伏せ

もっとも一般的な伏せ込み方で、湿度が低く、通風のよい広葉樹林や松林などに適します。キノコはやや採取しにくくなります。



井桁積み

湿度が高く、通風の悪い杉林などに適します。高さは1.5m以下で、乾燥に注意しながら管理します。



合掌伏せ

湿度の高い、平坦地での伏せ込みに適しています。時々、上下を入れ替えると良いでしょう。キノコは採取しやすくなります。



簡易ホダ場

直射日光を防ぎ、雨には当たるようにします。



STEP 6 ホダ起こし

接種2年目の秋になり、最低気温が14℃位まで低下する(キンモクセイが香る)頃、ホダ木を発生に適した場所に移動します。ホダ起こしの時期は、良質なキノコを発生させるポイントで、早すぎると柄が長くなり、遅すぎると収量が少なくなります。キノコを発生させる場所は、南または東南面の明るく暖かい場所(林内)が適し、散水できる場所が良いでしょう。なお、ホダ木を移動せずに、本伏せ場所でキノコを発生させることもできます。

STEP 7 発生

ホダ起こし後は、発生を確実にするために軽く散水します。にく丸(森290号)は秋に3回ほど散発発生する特性がありますから、降水量の少ない年には収穫が終わる頃に、1日2~3時間の散水を数日行ってください。なお、古いホダ木は夏の終わり頃から秋にかけて、天地返し等で刺激を与えておくと、秋と春の発生が一段と良くなります。なお、温・湿度条件によって、下図のような管理を施すと、生育が良好になります。

